

論文要旨

《背景》継続教育において教育的役割を発揮することを期待された看護師は、臨床現場において新人看護師の臨床実践能力を向上するための要となって任務を遂行している。しかし、自身の教育に不全感を抱えている現状がある。看護基礎教育では限られた時間の中で主体的に学び、知識を活用する方法を習得する機会が減少していることが指摘されている。このような状況を打開し、新人看護師が看護専門職者として、自己の臨床実践能力の向上に努め、患者に最良の臨床実践を行っていくためには、新人看護師に対して日々の臨床実践の中で効果的に自ら学ぶ意欲を高めることができるような教育的支援を行うことが重要といえる。

《目的》本研究の目的は、臨床現場で行った新人看護師に対する教育的支援の過程の記述を通して、新人看護師の自ら学ぶ意欲を促進する臨床実践能力開発支援について探究することである。

《方法》臨床看護教育者である当該研究者が、新人看護師に対して教育的支援を実施し、その過程を24時間以内に記述した。自ら学ぶ意欲を促進する教育的支援に関連する場面を特定し、①場面における新人看護師の関心や意識、②教育的支援とそのタイミング、③自ら学ぶ意欲を促進するための教育的支援であったことの根拠、④教育的支援実施後の新人看護師の発言や臨床実践、の視点で分析を行った。

《結果》研究期間は、2015年7月から8月の間の合計12日間で、研究協力者は、都内にあるA総合病院の一般病棟Bに所属する新人看護師3名であった。新人看護師に対する教育的支援において、自ら学ぶ意欲を促進する教育的支援に関する場面を6場面特定しその場面を分析した結果、34個の具体的な教育的支援が抽出された。これらの支援を類似した内容ごとに分類した結果、4個の大項目、11個の小項目が形成された。4個の大項目として、【新人看護師が安心して学ぶことのできる環境の構築】、【新人看護師の臨床実践につながる思考や行動を促すかわり】、【新人看護師が行う臨床実践の省察を促すかわり】、および【新人看護師の視座に立つこと】が導きだされた。

《考察》新人看護師の自ら学ぶ意欲を促進するために、新人看護師が気兼ねなく発言でき、看護チームのメンバーとともに学習機会を持つことのできる環境の創出、新人看護師の臨床現場での行動形態を豊かにするコーチングの活用、新人看護師が行う省察の支援、新人看護師の視座に立って新人看護師の意図や思考を確認することが、基盤となる教育力として臨床看護教育者に求められている。教育プログラムの構築により臨床看護教育者を育成し、新人看護師教育の充実を図るとともに、臨床看護教育者には、看護基礎教育と継続教育との融合により効果的で質の高い学びの場を創出する一翼を担うことが期待されている。